

日本生物学的精神医学会2013年度第1回理事会議事録案	(理事長)
2013年度後期の国際学会発表奨励賞の公募について	(理事長)
日本生物学的精神医学会国際学会発表奨励賞規定	
日本生物学的精神医学会2013年度「若手国際交流プログラム」公募のご案内	(理事長)

日本生物学的精神医学会 2013年度第1回理事会議事録案

1. 日 時 2013年5月23日(木)
7:30~9:20
2. 場 所 福岡サンパレスホテル&ホール4階
第6会議室
3. 理事出欠 武田 雅俊理事長(出),
大久保善朗(出), 尾崎 紀夫(欠),
笠井 清登(出), 佐野 輝(出),
白川 治(出), 染矢 俊幸(欠),
福田 正人(欠), 山脇 成人(欠),
岩田 伸生(出), 大森 哲郎(出),
神庭 重信(欠), 岸本 年史(出),
鈴木 道雄(出), 西川 徹(出),
村井 俊哉(出)
以上, 理事16名中11名出席
4. 監事出欠 松岡 洋夫(欠), 渡辺 義文(出)
以上, 監事2名中1名出席
5. 陪席者出欠 富田 博秋(出), 平安 良雄(出)

議 案

- 1 前回議事録等確認
武田理事長より, 前回理事会議事録が示され,
内容が確認された。
- 2 理事長報告
武田理事長より, 今回の理事会と, それに続
く新役員候補者懇話会が5月のJSPN会期中に
開催される運びとなったこと背景について説
明がなされた。6月のWFSBP2013KYOTO
Congressにおいては, 会期中にJSBPならびに
WFSBPの役員交代があり, 新理事会は成立直
後から国際的な対応を求められるという日程上
の特殊な事情があり, 事前に新役員候補の意見
を調整する場を設ける必要性があった。
また, 任期中の大きなミッションであった
WFSBP2013の京都での開催については, 同日
現在で1,000演題, 参加者数1,500~1,600名が

集まっており, 開催に向け着実に準備が進めら
れている。

3 会計報告

3.1 2012年度決算の件

岸本理事より, 2012年度の財務諸表に
ついて説明がなされた。ほとんどの科目
が予算に近い値で決算し, 最終的には30
万強の赤字という堅調な決算となった。
同年度に開催された第34回年会の収支
は, 2013年度会計で計上される。理事会
は原案どおり承認し, 評議員会・総会に
上程することとなった。

3.2 2013年度予算の件(岸本)

岸本理事より, 2013年度予算について
説明がなされた。WFSBP 2013 Local
Organizing Committeeでの支出および収
入が計上され, 例年とは大幅に異なる内
容となっている。主にはLOCでの国内
での活動費用と, それに応じた形での
Federation本部からの償還金で収支共に
金額が大きくなっており, また, シンポ
ジスト招聘費の500万については, 満額
を基金で賄う内容の予算である。理事会
は原案どおり承認し, 評議員会・総会に
上程することとなった。

4 会員数および新入会員に関する件

大久保理事より, 会員数の現勢について説明
がなされた。会員総数は横這いに近いが, 会員
における学生・若手会員の割合が増加してい
る。また, 昨年開始した賛助会員拡大キャンペ
ーンが徐々に奏功しつつあり, 賛助会員につい
ては漸増している。

5 評議員候補者選任の件

大久保理事より, 評議員就任希望者23名の
申請書類について説明があった。武田理事長よ
り, 現在の評議員の総数226名が, 全会員の
10%を大きく上回っていることが指摘され,

評議員数を一定の範囲に抑えた方が良くどうかとの議論がなされた。審議の結果、新たに評議員就任を希望する各氏は生物学的精神医学を牽引する若手であり、定数を定めて人数の水準を保つよりも、積極的に現役で活躍する研究者の参画を得るとの結論に至った。理事会は、会員歴要件を僅かに満たさない3名も含め、23名全員を評議員候補者として承認し、評議員会・総会に上程することとなった。

6 役員候補者選任の件 (大久保)

大久保理事より、理事選挙の結果について報告がなされた。選挙の得票順で加藤忠史、久住一郎、曾良一郎、中込和幸、吉川武男の各氏が理事候補者として選出され、また、理事長、総務委員会、監事の協議により、次点、次々点の候補者から、篠崎和弘、平安良雄、朝田 隆、渡辺義文の各氏が理事候補者に、米田 博、寺尾 岳の各氏が監事候補者にそれぞれ選出され、理事会は全員を評議員候補者として承認し、評議員会・総会に上程することとなった。

また、次回以降の役員候補者選考会議は、理事長、総務委員をもって構成し、(被選挙権を持つ) 監事は同会議から除外するよう申し送ることとなった。

7 各委員会報告

7.1 総務委員会 特になし。

7.2 広報委員会

岩田理事より、ウェブサイトのリニューアルを行い、WFSBP開催に向けての英文メッセージを掲載したことが報告された。武田理事長の提案により、歴年の年会会長と開催地一覧を掲載することとなった。

7.3 財務委員会 特になし。

7.4 国際交流委員会

武田理事長より、韓国、台湾、香港の3ヵ国と、相互的に若手研究者のExchangeをおこなっており、今回の第35回年会(WFSBP2013)にも、各国から最大2名のDelegateが派遣されることとなっている旨の報告がなされた。

7.5 学術賞委員会

西川理事より、2012年度の各賞受賞者について、以下のとおり報告があった。

7.5.1 2012年度(第21回)学術賞

久保田 学(京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座〔精神医学〕)

Thalamocortical Disconnection in the Orbitofrontal Region Associated With Cortical Thinning in Schizophrenia

Archives of General Psychiatry

高田 篤(理化学研究所脳科学総合研究センター分子精神科学チーム)

A population-specific uncommon variant in GRIN3A associated with schizophrenia
Biological Psychiatry

7.5.2 2012年度前期国際学会発表奨励賞

木下 誠(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野)

Genome-wide DNA methylation analysis using peripheral blood samples derived from unmedicated patients with schizophrenia

28th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology

笹本 彰彦(京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座〔精神医学〕)

Association of cortical thickness and white matter integrity in schizophrenia

18th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping

中島 麻美(山口大学大学院医学研究科高次脳機能病態学分野)

Neural correlates of parental rearing temperament in individuals with major depressive disorder

18th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping

7.5.3 2012年度後期国際学会発表奨励賞

ALEKSIC Branko(名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野)

Genetic Association Links Receptor Tyrosine Phosphatase-Alpha to Schizophrenia
2012 World Congress of Psychiatric Genetics

吉田 正邦(神戸大学大学院医学研究科精神医学分野)

Haplotypes in the expression quantitative trait locus of interleukin-1 β gene are associated with schizophrenia

American Society of Human Genetic 62nd Annual Meeting

7.6 倫理委員会

白川理事より、年会での発表に際して

のCOIの開示の準備状況につき報告がなされた。第35回年会(WFSBP2013)ではHanser社が実務を取り扱うため、今期からの実施は困難であるが、第36回年会より、導入を行う予定である。

7.7 将来計画委員会

笠井理事より、標記委員会の企画する「若手研究者育成プログラム」について報告がなされた。WFSBP2013KYOTO Congress初日の6月23日に、若手研究者育成プログラムの開催が予定されている。

7.8 関連学会対応委員会

佐野理事より、標記委員会の活動につき報告がなされた。Neuro2013とWFSBP2013の共催で、うつ病に関するシンポジウム「気分障害におけるグリアの異常」を追加で開催することとなった。また、本学会役員交代にあたり、日本脳科学関連学会連合における評議員の変更手続き、引継ぎが必要であることについて説明があった。

7.9 編集委員会

村井理事より、標記委員会の活動につき報告がなされた。第25巻全号をWFSBP2013の記録にする企画が進んでおり、座長などを務めた日本人には各種の協力を依頼する予定である。また、JSTからの要請で、JaLC DOIプレフィックスを本誌に付与することとなった。

7.10 ブレインバンク設立委員会

富田オブザーバーより、2013～2014期の委員案、精神疾患ブレインバンク倫理指針第3版の案、ならびに今後の活動方針案が示され、原案どおり承認された。

7.11 うつ病研究推進WG 特になし。

7.12 WFSBP2013 LOC

冒頭の理事長報告で述べられたとおり。

8 WFSBP報告

平安理事よりWFSBPの動向につき報告がなされた。現在、WFSBPではAthensで2015年、Copenhagenで2017年の大会が予定されているが、京都のECにおいて、2019年の大会の場所がVancouverに決定される予定である。WFSBPの運営には2年ごとのWorld Congressで、300,000 EUR程度の黒字が求められている。なお、Kyoto Congress会期中には執行部選挙が予定されており、本学会としてPresident-

electに武田理事長を推薦したことが確認された。また、今回の大会時の表彰では、佐藤光源氏がWFSBP Award for Scientific Excellence of the WFSBP Hostを、高橋三郎氏がAward for excellence in Educationを日本人として受賞することとなった。

9 第34回年会報告

次回理事会において米田理事より詳細を報告予定である。

10 第35回年会報告

冒頭の理事長報告で述べられたとおり。

11 第36回年会報告

西川理事より、2014年9月29日～10月1日に、日本神経化学会と合同のもと、奈良で開催予定である旨の報告がなされた。

12 第37回年会会長選任の件

新理事会での審議事項として申し送ることとなった。

13 その他

13.1 精神疾患克服に向けた研究推進の提言の件

武田理事長より、標記提言は実質的に本学会が中心として取りまとめられている旨の報告があった。今後の政府などに働きかける際のステートメントとして活用されることが期待されている。

以上

2013年度後期の国際学会発表 奨励賞の公募について

日本生物学的精神医学会
理事長

2013年後期(10月から翌3月)に開催される国際学会での発表者を対象として下記の要領で標記賞受賞候補者の募集を行いますので奮って応募(推薦)して下さいようお願い申し上げます。

記

1. 規定 以下のとおり
2. 推薦要領 推薦用紙(本学会ウェブサイトwww.jsbp.orgよりダウンロードしていただけます)、評価の参考となる資料(抄録・サーキュラー・学会プログラム等)8部を同封し、下記送付先宛にご送付下さい。
3. 送付先 〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 学会支援機構内
日本生物学的精神医学会理事長
4. 応募締切日 2013年12月24日(火) 必着

以上

日本生物学的精神医学会 国際学会発表奨励賞規定

1. 設置 日本生物学的精神医学会は規定により研究奨励賞（国際学会発表制度）を設ける。
2. 名称 名称は、日本生物学的精神医学会国際学会発表奨励賞とする。
3. 対象 原則として応募時年齢35歳未満の会員で、国際学会に参加し、将来性のある優れた研究を発表する者に贈られる。対象となる学会および発表される研究内容については選考委員会が評価を行う。
4. 表彰 研究奨励賞は賞状および副賞とし、副賞は15万円とする。
5. 募集 募集は年2回行う。前期は当該年度4月から9月の間に、後期は当該年度10月から3月の間に開催される国際学会に参加する者を対象とする。
6. 選考
 - 1) 研究奨励賞を選考するために本学会内に選考委員会を設ける。
 - 2) 選考委員は理事・評議員より理事会で選出する。委員長は委員の互選により決定する。委員は6名とし任期は2年とする。再任は妨げない。
 - 3) 選考対象者と同一講座（大学以外の機関はこれに準ずる部局）に所属する選考委員は、その年度の選考には加わらないものとする。
 - 4) 選考委員会は受賞者を決定し、委員長は当該者なしの場合も含めて理事長に報告する。委員長は年会の際に開催される理事会に選考経緯および結果を、また評議員会に選考結果を報告する。

付則

- (1) 本規約は1999年4月22日より施行する。

日本生物学的精神医学会 2013年度「若手国際交流プログラム」 公募のご案内

日本生物学的精神医学会
理事長

本年度も昨年度に引き続き、韓国、台湾、香港の各生物学的精神医学会に参加して研究発表をする若手研究者を公募いたします。会員の皆様におかれましては、本プログラムの趣旨をご理解の上、多数ご応募いただきますようご案内申し上げます。

1. 趣 旨 本学会は、アジア地域における精神医学領域の研究の発展と交流を促進するために、韓国、台湾、香港の各生物学的精神医学会との間に「若手交流プログラム」を締結いたしました。この取り決めに基づいて、日本と韓国、日本と台湾、日本と香港の各生物学的精神医学会は、それぞれの年次学術集會に若手研究者2名以内をお互いに招聘することになっております。日本生物学的精神医学会には韓国、台湾、香港の各生物学的精神医学会からそれぞれ若手研究者が来日し研究発表をすることを予定しておりますが、これに対応する形で、韓国、台湾、香港の各生物学的精神医学会に参加して研究発表をしていただくために若手研究者を派遣するものです。
2. 応募資格 申請日現在に40歳以下の本学会会員であること。
3. 応募方法 次の書類を日本生物学的精神医学会国際交流委員長（jsbp@asas.or.jp）宛にE-mail添付でご提出下さい。
 - 1) 応募用紙（書式不問・以下A～H全てを記載）
 - A. 氏名, B. 申請時の年齢, C. 所属, D. 連絡先, E. 派遣希望国, F. 応募の背景と理由400字以内, G. 英文発表予定演題名, H. アブストラクト300 words以内
 - 2) 履歴書および業績目録（書式不問）
4. 応募期限 各国BP学会の年次学術集會の3ヵ月前。
5. 募集人員 本年度は、韓国、台湾、香港への各最大2名で合計最大6名の派遣を予定しております。
6. 学会日程 韓国、台湾、香港の各学会年次学術集會の開催日と場所は、各学会に直接ご確認下さい。
7. 賞の内容 選出された若手研究者は、韓国、台湾、あるいは香港の各生物学的精神医学会の学術集會いずれかに招聘され研究成果を発表するとともに、渡航滞在費として各1,000 USDの支給を受ける。
8. 選考方法 会員に対し公募を行い、国際交流委員会にて候補者を選出し、理事会にて決定。
9. 結果通知 理事会決定後、本人宛に通知いたします。

以上